

参加者で埋め尽くされた公開講演会

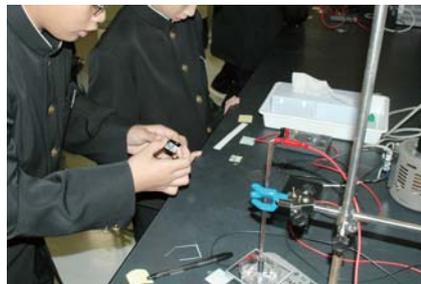


答が95%に達した。

岡崎市内中学生の見学会（通称、サイエンスレンジャー）は、午前中に南実験棟1階で実施された。この会は市教育委員会理科部会との共催で、一般公開する研究所が毎年開催するものである。今年は学生に実験装置を操作してもらい、話題の科学技術を実体験させる事を目標とし以下のテーマを選んだ。(1) 酸化チタン TiO_2 の多色塗装に電気を使う：チタンに電流を流し陽極酸化させ、 TiO_2 の厚みを50

サイエンスレンジャーで
チタン板を手に、実験に取り組む中学生

nm以下で制御し表面を様々な着色する。(2) TiO_2 を色素塗装して電気を起こす： TiO_2 ナノ粒子に花の色素を塗って、可視光を高効率で吸収する色素増感太陽電池を製作する。どちらもナノの科学現象を含み、基本原理が容易で、操作は簡単かつ安全である。また、生活に直結し話題性に富む割に学生実験の題材としては斬新である。開会式で山本教育監の挨拶と講師の紹介があり、その後、219名の中学生が3つのグループに分かれて約50分間ずつ実験を行った。中学生4人に1人の割合で研究所スタッフが補佐に付いたため、トラブルは無く、誰もが楽しそ



うに作業に取り組んでいた。カラフルに着色されたチタン板の出来映えも良く、中学生にも引率教諭にも大変好評であったと聞いている。

参加者数が少ないのではないかと心配されたが、総数2058名の予想を遙かに上回る見学者が訪れている。この中には、東京や山口からの来訪者があった。地元の皆さんの理解を深めることは研究所にとっても大変重要なことであり、多くの皆さんが興味を持って頂いたことは嬉しい限りである。この行事の成功に献身的にご協力頂いたスタッフや学生、事務センターの皆さんに感謝したい。

(西 信之、青野重利、見附孝一郎 記)

News

分子科学会 (Japan Society of Molecular Science) 設立

分子科学分野の主たる研究会の一つとして「分子構造総合討論会」(以下、討論会)があり、毎年多くの研究者や学生の参加を得て活発な討論が行われてきた。一方、分子科学研究所の設立の推進に大きく貢献した「分子科学研究会」(以下、研究会)は、分子科学分野のコミュニティーと分子研を結ぶパイプとしての役割を果たし、独自のメーリングリストによるサーキュラーの発行、講演会の開催などを行ってきた。

両者にはそれぞれ独自の歴史があるが、これらをまとめた新学会設立を求める動きが2004年に始まった。まず、同年9月に研究会側から討論会側の運営委員会に向けて、新学会発足の可能性を探るための議論を始めることが提案された。これを受けて、両組織の合

意のもとで設立検討委員会が設置され様々な角度から議論が重ねられた。その結果、参加者数の増加傾向にある分子構造総合討論会の運営が今までの運営委員会方式ではだんだん難しくなってきたことや、多様化する分子科学分野のプラットフォームとして日常的に情報交換・研究発表の場を持つこと、その場で若手を育成すること、また、分子科学分野からその他の分野の研究者、行政組織、一般社会へ情報を発信し、提言をするためのまとまった組織をもつこと、などの必要性に関する共通認識が持たれた。その後、さまざまな経緯を経て(「分子科学会」設立に至る詳しい経緯は同学会のホームページ<http://www.molsci.jp>にある)、2006年9月20日、静岡における討論会の

期間中に研究会と討論会がマージする形で新学会である分子科学会が設立された。

分子科学分野のプラットフォームを標榜する分子科学会と本研究所がどのような関係を築いていけるかは当該分野の今後の発展に大きな影響を及ぼすと考えられる。同じ「分子科学」を冠する組織ではあるが、研究分野が必ずしも完全にオーバーラップしている訳ではない。また、果たす機能は当然異なる。このような違いはあるが、本研究所と分子科学会とがそれぞれの機能を十分に発揮して、分子科学研究のさらなる活性化がはかられることを期待したい。

(松本吉泰 記)